

知財・情報フェア 2025 vs 2026：特許調査のパラダイムシフト

生成AIの役割が「効率化」から「信頼性と実用性」へと進化。

2025年：生成AI「搭載」期

自動化・効率化

多くの展示がAIによるノイズ除去や調査の高速化をアピール。



来場者数
15,207名

出展規模
158社・団体 / 328小間



西3・4ホール

訴求ポイントの劇的な変化： 効率から信頼へ

性能・広告表示を巡る 法的紛争の発生

AIツールのコスト削減率などの
広告表示を巡る訴訟が表面化。

ツール選定の新基準：
速さよりも「再現率、根拠、監査可能性、
機密保持」が重視される時代へ。



2026年：実務への「実装」期

根拠提示・再現率

AIエージェント、特許特化LLM、
ハルシネーション対策が生流に。



来場者数
15,502名 (+1.9%)

出展規模
171社・団体 / 367小間



東3ホール